

第 12 回人社プロジェクト研究会(人社講)

日時 平成 19(2007)4 月 16 日 (月) 19.00-21.00

場所 クラウンプラザ神戸 4 階 ザ・バー会議室

開会挨拶

出席者紹介

議事

1. 人社プロジェクト全体概要説明 (資料 1)
2. 平成 18 年度事業報告 (資料 2)
3. 平成 19 年度計画説明 (資料 3)
4. 平成 18 年度事業評価と 19 年度事業提案のお願い (資料 4)



出席者(五十音順 敬称略)

芦谷 恒憲	兵庫県県民政策部統計課課長補佐
大坪 慎一	大坪税理士事務所所長 (元賢明女子短期大学・講師)
岡田真美子	兵庫県立大学環境人間学部教授
神頭 成禎	兵庫県立大学大学院環境人間学専攻博士後期課程*
久戸瀬昭彦	兵庫県県民政策部県民文化局生活創造課課長補佐
熊谷 哲	兵庫県立大学環境人間学部教授*
合田 博子	兵庫県立大学環境人間学部教授
古賀 弘一	兵庫県立大学大学院環境人間学専攻博士後期課程兵庫県西播磨県民局嘱託
田端 和彦	兵庫大学経済学部准教授
竹村 英樹	兵庫県北播磨県民局県民生活部主幹 (総務調整担当)
中塚 則男	兵庫県兵庫県県民政策部県民政策局局长
牧 慎太郎	兵庫県県民政策部部长
松田 竜一	兵庫県県民政策部政策局ビジョン課課長補佐 (ビジョン担当)
三宅 康成	兵庫県立大学環境人間学部准教授
森下 一男	香川大学工学部准教授【欠席】
和崎 宏	インフォミー株式会社代表取締役 兵庫県立大学大学院環境人間学専攻博士後期課程

人文・社会科学振興プロジェクト研究事業

人文・社会科学振興プロジェクト研究一覧

平成18年7月現在

研究領域	プロジェクト研究名	プロジェクト・リーダー	研究グループ名	グループ長
研究領域 I 知の遺産を始めとする日本の在り方と今後の変容について研究する領域	I-1 日本の知的資産の活用	桑子 敏雄 東工大・社会理工・教授	日本文化の空間学構築	桑子 敏雄 東工大・社会理工・教授
			日本型地域ネットワークと地域通貨	岡田 真美子 兵庫県立大・環境人間・教授
	I-2 「失われた10年」の克服—日本の社会システムの再構築—	青島 矢一 一橋大・イノベーション研・助教授	日本的品質管理の検証	加登 豊 神戸大・経営・教授
			日本の組織・人材育成システム	石川 淳 立教大・社会・助教授
			日本の教育システム	苅谷 剛彦 東大・教育・教授
	I-3 これからの教養教育	鈴木 佳秀 新潟大・現代社会・教授	教養教育の再構築	葛西 康徳 大妻女大・文・教授
グローバル化時代における市民性の教育			佐藤 学 東大・教育・教授	

研究領域	プロジェクト研究名	プロジェクト・リーダー	研究グループ名	グループ長
研究領域 II グローバル化時代における多様な価値観を持つ社会の共生を図るシステムについて研究する領域	II-1 平和構築に向けた知の展開	黒木 英充 東外大・AA 研・教授	地域研究による「人間の安全保障学」の構築	黒木 英充 東外大・AA 研・教授
			ジェノサイド研究の展開	石田 勇治 東大・総合文化・教授
			アメリカ研究の再編	古矢 旬 北大・法・教授
	II-2 多元的共生社会の構築	宇田川 妙子 人間文化・民博・助教授	運動の現場における知の再編の解明	宇田川 妙子 人間文化・民博・助教授
			被災地の現場における共生社会の構築	岩崎 信彦 神戸大・文・教授
			多元的共生に関する国際比較の研究	辻中 豊 筑波大・人社・教授
	II-3 グローバル・ガバナンスの解明	遠藤 乾 北大・公共政策・教授	重層的ガバナンスの理念と実態の解明	遠藤 乾 北大・公共政策・教授
			帝国とネットワーク—アジア広域経済秩序の解明	籠谷 直人 京大・人文研・教授
	II-4 水のグローバル・ガバナンス	中山 幹康 東大・新領域・教授	越境影響評価と水のガバナンス	中山 幹康 東大・新領域・教授
			「青の革命」と水のガバナンス	蔵治光一郎 東大・愛知演習林・講師

研究領域	プロジェクト研究名	プロジェクト・リーダー	研究グループ名	グループ長
研究領域 III 科学技術や市場経済等の急速な発展や変化に対応した社会倫理システムのあり方について研究する領域	III-1 ボトムアップ人間関係論の構築	佐藤 達哉 立命館大・文・教授	社会変化と人間関係の諸相	佐藤 達哉 立命館大・文・教授
			医療現場における意思決定・問題解決・協働	清水 哲郎 東北大・文・教授
	III-2 医療システムと倫理	清水 哲郎 東北大・文・教授	医療システムと医療専門家組織、保険者、民間保険機関の役割	吉田 あつし 筑波大・システム情工・教授
			日本のリスクガバナンス・システムの実態解明と再構築の提言	平川 秀幸 阪大・CDS・助教授
	III-3 科学技術ガバナンス	城山 英明 東大・法政・教授	現場からの技術者倫理システム	大上 泰弘 帝人ファーマ・主任研究員
			科学技術の進展と国際問題—安全保障リスクのガバナンス—	鈴木 達治郎 電力中央研・上席研究員
			政策システムと専門知	久米 郁男 早稲田大・政経・教授
	III-4 市場システムのガバナンス	久米 郁男 早稲田大・政経・教授	久米 郁男 早稲田大・政経・教授	

			市場補完・統御の法制度設計に向けた知の再編	藤谷 武史 北大・法・助教授
--	--	--	-----------------------	-------------------

研究領域	プロジェクト研究名	プロジェクト・リーダー	研究グループ名	グループ長
研究領域 IV 過去から現代にわたる社会システムに学び、将来に向けた社会の持続的発展の確保について研究する領域	IV-1 千年持続学の確立	木村 武史 筑波大・人社・助教授	心性の持続性に関する学融合的研究	木村 武史 筑波大・人社・助教授
			都市の持続性に関する学融合的研究	村松 伸 東大・生産研・助教授
			社会制度の持続性に関する学融合的研究	加藤 雄三 人間文化・地球研・助手
	IV-2 豊かな人間像の獲得	小長谷 有紀 人間文化・民博・教授	産育の現場からの考察	松岡 悦子 旭川医大・助教授
			伝承の現場からの考察	小長谷 有紀 人間文化・民博・教授
			家族と人口変動の現場からの考察	津谷 典子 慶應大・経済・教授
	IV-3 資源配分メカニズムと公正	佐藤 仁 東大・新領域・助教授	分配問題としてのインフラ／資源開発	湊 隆幸 東大・新領域・助教授
			貧困・格差研究	青山 和佳 和洋女大・人文・助教授

研究領域	プロジェクト研究名	プロジェクト・リーダー	研究グループ名	グループ長
研究領域 V 現代社会における言語・芸術・芸能表現の意義と可能性について研究する領域	V-1 伝統と越境 —とどまる力と越え行く流れのインタラクション—	沼野 充義 東大・人社・教授	自己表象の生成と変容	柏木 博 武蔵野美大・造形・教授
			越境と多文化	楯岡 求美 神戸大・国際文化・助教授
			伝統から創造へ	福岡 正太 人間文化・民博・助教授
	V-2 日本の文化政策とミュージアムの未来	木下 直之 東大・人社・教授	都市政策の課題と芸術文化の役割に関する研究	小林 真理 東大・人社・助教授
			ミュージアムの活用と未来—鑑賞行動の脱領域的研究	五十殿 利治 筑波大・人間総合・教授
	V-3 文学・芸術の社会的媒介機能	吉岡 洋 情報科学芸術院大・教授	文学・芸術の社会統合的機能の研究	山田 広昭 東大・総合文化・教授
			芸術とコミュニケーションに関する実践的研究	藤田 治彦 阪大・文・教授

平成 18年度 人文・社会科学振興プロジェクト研究事業
研究成果報告書(個別)

プロジェクト研究名	日本的知的資産の活用	
研究グループ名	日本型地域ネットワークと地域通貨	
研究機関名	兵庫県立大学	
リーダー名(所属)	岡田真美子(環境人間学部)	
研究組織(研究協力者含む)(人名、所属(当時)、役割)		
岡田真美子 (兵庫県立大学環境人間学部・教授)	研究グループ長 全体構想担当	
合田 博子 (兵庫県立大学環境人間学部・教授)	神道・水と地域ネットワーク担当	
森下 一男 (香川大学工学部・助教授)	ため池水利ネットワーク担当	
三宅 康成 (兵庫県立大学環境人間学部・助教授)	農村計画と地域ネットワーク担当	
大坪 慎一 (元賢明女子短期大学・講師、税理士)	ネットワーク会計研究担当	
和崎 宏 (インフォミーム株式会社・代表取締役)	ICT ネットワーク地域 SNS 研究担当	
兵庫県立大学大学院環境人間学専攻博士後期課程		
田端 和彦 (兵庫大学経済学部・助教授)	地域経済ネットワーク担当	
古賀 弘一 (兵庫県西播磨県民局囑託)	旧来型地縁ネットワーク契約講研究担当	
兵庫県立大学大学院環境人間学専攻博士後期課程		
藤田 益伸 (社会福祉法人尚紫会職員)	地域通貨活動の心理担当	
中塚 則男 (兵庫県西播磨県民局副局長)	地域ネットワーク政策担当	
竹村 英樹 (北播磨県民局県民生活部主幹(総務調整担当)無尽講の効果と行政施策担当		
久戸瀬昭彦 (兵庫県県民政策部県民文化局生活創造課課長補佐兼生活政策係長)県民ネットワーク政策担当		
松田 竜一 (兵庫県人事委員会事務局総務課審査係長)無尽講地域ネットワークと行政担当		
芦谷 恒憲 (兵庫県統計課課長補佐)	無尽講統計担当	
研究協力者		
牧慎太郎(元総務省企画官地域通貨担当。本年度より兵庫県政策局長)IT 地域通貨と地域行政担当		
山縣然太郎(山梨大学大学院 医学工学総合研究部・教授)地域保健の社会医学的研究担当		
Nayana Perera(日本スリランカ交流協会)	スリランカのため池研究	
Ananda Herath(Sri Lanka Anuradhapura 警察・長官)	地域行政・ため池研究	
山田伊津香(NPO 法人千姫プロジェクト事務局長)	研究サポート業務担当	

研究実施状況の概要(当該年度のまとめ)

<概要>

山梨、宮城、福岡、大分などでの現地調査、文献探索、情報交流を行って、4つの日本型地域ネットワーク(伝統的なネットワーク)の今日的現われを抽出することができた。

- A. 現代に生きている「講」の実質的効用の立証に有効な例:「無尽と健康寿命」
- B. 岐路にある伝統縁の事例:地域マネジメントを担ってきた伝統縁(石巻市北上町「契約講」)と今日的住民行政単位との軋轢に関する例。
- C.再編されるネットワーク:地域の水ネット。ため池のネットワークを考えるためのわが国初の国際ため池シンポジウムを開催した
- D. 新しい地域ネットワーク:総務省、LASDECと協働し、兵庫県龍野市、熊本県人吉市、合志市の地域通貨活動の支援を行った

<学際性について>

地域の伝統研究のための人文科学(環境宗教学、文化人類学)、地域の現状把握とデザインのための社会科学(農村計画)、自然科学(農業土木)がそれぞれに連携し、行政がもつ地域経営の知識をあわせ、さらに ICT 技術、財務、行動心理、医学に関する知見を加味することによって、総合的な日本型地域ネットワークを目指している。これらは単にそれぞれの研究領域の専門家が自分野の報告を持ち寄るだけでなく、現場や課題を共有して協働することから、それぞれの研究メンバが自らの研究の中にすでに他領域の知見を導入するということが起きている。そのなかから、今、「地域ネットワーク論」という新しい研究領域が見えてきた。

<社会提言についての成果>

■国内初の国際ため池シンポジウムを企画開催した

研究発表、ポスターセッション、パネルディスカッション、分科会を行い、官学民から参加者を得た。地域社会の現場と連携しながら、伝統的地域ネットワークが現代社会で果たしうる役割を解明して社会に発信してゆく計画を進めることができた。(このシンポジウムの成功は、直前病に倒れ、なお入院中の研究協力者森下一男香川大学助教授の周到な準備と、企画に負うところが大きい。)パネル・ディスカッション、全体会の討議の様様を再現した報告書を作成したので、希望があれば配布する。

このシンポジウムが契機となって、同じ人社プロジェクト内の「青の革命と緑のダム」研究グループの蔵治光一郎リーダーによって、平成 19 年 9 月 15-16 日、第 2 回ため池シンポジウムを愛知で開催する計画が進んでいる。その後も「日本の空間学」研究グループの島谷幸宏教授が福岡での開催を予定しておりため池シンポジウムが継続する予定になったのは大きな成果であると考えられる。

■『地域をはぐくむネットワーク』の刊行(昭和堂 2006 年 12 月刊行)

地域ネットワークの力を語ることによって、限界集落の危機を越える・地域の宝が生きるまちづくり・心安らぐ暮らしのデザイン・地域の記憶の甦りなどをめざす人々を支援することを目指して、4冊のブックレットセットで1冊の単行本となる形式のものを発行した。(市販本は一冊合本となっている。)人社プロに参加しての最も大きい成果であり、ネットワーク学という新しい学問分野を拓く礎になればありがたい。桑子敏雄プロジェクトリーダー、島谷幸宏教授、鈴木了市氏の多大な協力を頂いた。

シンポジウム、ワークショップ等の開催状況(当該年度の開催年(西暦)月日、開催場所、名称、参加人数などを開催日順に記入してください。)

2006/4/16 兵庫県大新在家キャンパス 第7回人社講 11名 東京での桑子プロジェクト会議報告と1年の計画
 2006/5/6 兵庫県大新在家キャンパス 第8回人社講 8名 本年度計画実行に関する議論
 2006/6/6 兵庫県大新在家キャンパス 第1回国際ため池シンポジウム実行委員会 17名
 2006/7/6 姫路プラザ会議室 第9回人社講 14名 『地域をはぐくむネットワーク』編集会議
 2006/7/21f 石巻市北上総合庁舎教育委 契約講 FWS 15名 長尾, 行人前の契約講聞き取り調査
 2006/8/6 ホテル日航姫路会議室 第10回人社講 13名 『地域を』原稿持寄り,シンポジウム意見交換会
 2006/8/18f 山梨県庁,山梨大学医学部,賀茂春日神社 33名 山梨健康寿命と無尽講フィールドワークショップ
 2006/10/6 ホテル日航姫路会議室 第2回国際ため池シンポジウム実行委員会 21名 最終打合わせ会議
 2006/11/11 兵庫県大新在家キャンパス第1回ため池シンポジウム パネルディスカッション 200名
 2006/11/12 兵庫県大新在家キャンパス第1回ため池シンポジウム 分科会、全体会 150名
 2006/12/6 新神戸オリエンタル会議室 第11回人社講 11名 籠谷直人リーダー講演「兵庫の昔と今」
 2006/12/24 兵庫県大新在家キャンパス第1回ため池シンポジウム反省会(地域 SNS ひよこむ共同開催)50名
 [4/8, 10/27ff,2007/2/9ff は桑子 PJ 企画の FWS に参加した。]

※<http://indranet.jp/jinsha/index.html> に人社プロ HP 国際ため池シンポジウムに関しては詳細報告書あり

論文、著書等(本事業に係わる当該年度の論文、著書について、著者名、論文名・著書名・学会誌名、巻(号)、最初と最後の頁、発表年(西暦)月を発表年月順に記入してください。) 当研究グループ関係分

岡田真美子編『地域をはぐくむネットワーク—歴史を活かす〈縁〉・未来を創る〈絆〉』2006.12
 第1部 健康な長寿社会をつくる—伝統的地域ネットワーク
 岡田真美子「講」の合力—伝統縁の可能性」pp.5-22
 古賀弘一「契約講と地域自治」pp.23-40
 竹村英樹・久戸瀬昭彦・松田竜一・芦谷恒憲「無尽と健康寿命」pp.41-56
 第2部 ため池のある地域の再生—ため池ネットワーク
 森下一男「地域のなかのため池入門」pp.61-76
 アーナンダ・ヘーラット/ナヤナ・ペレラ「スリランカため池物語」pp.97-112
 第3部 地域の環境を守ってきたもの—神と水ネットワーク
 岡田真美子「聖域と水」pp.117-131
 合田博子「入が池と丹生都比売」pp.133-151
 第4部 地域の人をつなぐツール—ICTネットワーク
 和崎宏「地域の人をつなぐツール」pp.173-190
 岡田真美子「IT地域通貨がつなぐ人的ネットワーク」pp.191-206
 久戸瀬昭彦・和崎宏「地域づくりとSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)pp.207-224
 岡田真美子「これからの自治体政策の視点 新しい公を求めて」『ひょうご自治』12月—3月号 兵庫自治協会 各号 pp.19-20 連載

平成 19 年度研究計画書

1. プロジェクト研究：日本的知的資産の活用

《コア研究》日本型地域ネットワークと地域通貨

2. 研究担当者：

《岡田真美子》《兵庫県立大学》《環境人間学部》《教授》
 《合田 博子》《兵庫県立大学》《環境人間学部》《教授》
 《森下 一男》《香川大学》《工学部》《准教授》
 《三宅 康成》《兵庫県立大学》《環境人間学部》《准教授》
 《田端 和彦》《兵庫大学》《経済学部》《助教授》
 《熊谷 哲》《兵庫県立大学》《環境人間学部》《教授》
 《大坪 慎一》《大坪税理士事務所》《所長》（元賢明女子短期大学・講師）
 《和崎 宏》《インフォミー株式会社》《代表取締役》
 《兵庫県立大学大学院》《環境人間学専攻》《博士後期課程》
 《神頭 成禎》《兵庫県立大学大学院》《環境人間学専攻》《博士後期課程》
 《古賀 弘一》《兵庫県立大学大学院》《環境人間学専攻》《博士後期課程》
 《兵庫県》《西播磨県民局》《囑託》
 《中塚 則男》《兵庫県》《県民政策部県民政策局》《局長》
 《竹村 英樹》《兵庫県》《北播磨県民局県民生活部》《主幹（総務調整担当）》
 《久戸瀬昭彦》《兵庫県》《県民政策部県民文化局生活創造課》《課長補佐》
 《松田 竜一》《兵庫県》《県民政策部政策局ビジョン課》《課長補佐（ビジョン担当）》
 《芦谷 恒憲》《兵庫県》《県民政策部統計課》《課長補佐》
 《牧 慎太郎》《兵庫県》《企画管理部》《部長》

3. 研究の目的：

桑子プロジェクトが「フィールドワークショップ」という方法のもとに行ってきた「〈縁〉（地域ネットワーク）の継承と再生」というテーマについて研究成果をまとめる。

- ①日本型地域ネットワークとはどのようなものであるのかを歴史のおよび現存する地域ネットワークのなかに見出された実例に基づいて明らかにする。
- ②日本型地域ネットワークの継承と再生のための理論構築とその検証の枠組みについての考察をまとめる
- ③ その他上記の課題に関わる諸問題について考察する。

4. 研究の計画及び推進方法：

平成 19 年度は、これまでの研究成果を集大成するための作業を行う。

- (1) 出版社と協議しながら、人文社会科学の振興に関する社会的ニーズを踏まえ、社会提言を実現するような形で研究成果を出版する。
 - ①H18年に出版したこれまで4年間の人社プロでの成果の集成『地域をはぐくむネットワーク』（昭和堂）の続編を出版する。
 - ②地域通貨を中心にまとめた『地域再生とネットワーク』を出版する。
- (2) これまで行ってきたプロジェクトについて、運営の方法、成果の評価方法、その他について検証するための作業を行う。そのためにこれまでの研究に協力くださった地域の産官学民の関係者ともう一度共学の機会を持ち、4年間の成果をフィードバックして検証するワークショップを行なう。
 - (6) その他、上記事項に関係する作業を行い、本研究プロジェクトを締めくくる。

5. 人文・社会科学振興プロジェクト研究事業全体の活動に参画

- サイエンス・カフェ人社版（仮名）に参画する。
- シリーズ本『未来を拓く人文・社会科学』に執筆・関与する。
- 依頼があった場合、ニューズレターに執筆等を行う。（第1号原稿を依頼されて執筆済）

6. 研究期間： 委託研究契約締結日より平成 20 年 3 月 31 日まで

2007.2.27 提出 4.16 修正

平成 19 年 4 月 16 日

日本型地域ネットワークと地域通貨 平成 18 年度事業評価シート

日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト「日本型地域ネットワークと地域通貨」研究グループメンバーによる評価と提案をお願いいたします。忌憚のないご意見をお書きください。

1. 平成 18 年度のグループ事業の進め方についてはどのようにお考えですか。
評点(100 点満点)とともに理由をお書きください。

2. 平成 18 年度事業の内容についてはどのようにお考えですか。
評点(100 点満点)とともに理由をお書きください。

3. 平成 18 年度事業に参加されて新たに得られた知見はありましたか？
その内容をお書きください。(複数ありましたら、すべてお書きください)

4. 平成 19 年度事業を進めるに当たり、改善点、提案などお書きください。

5. 『地域をはぐくむネットワーク』続編へのご自身の貢献のあり方(予定)をお書きください。
執筆テーマ、内容、協力、支援いずれでも

氏名 _____

ありがとうございました